

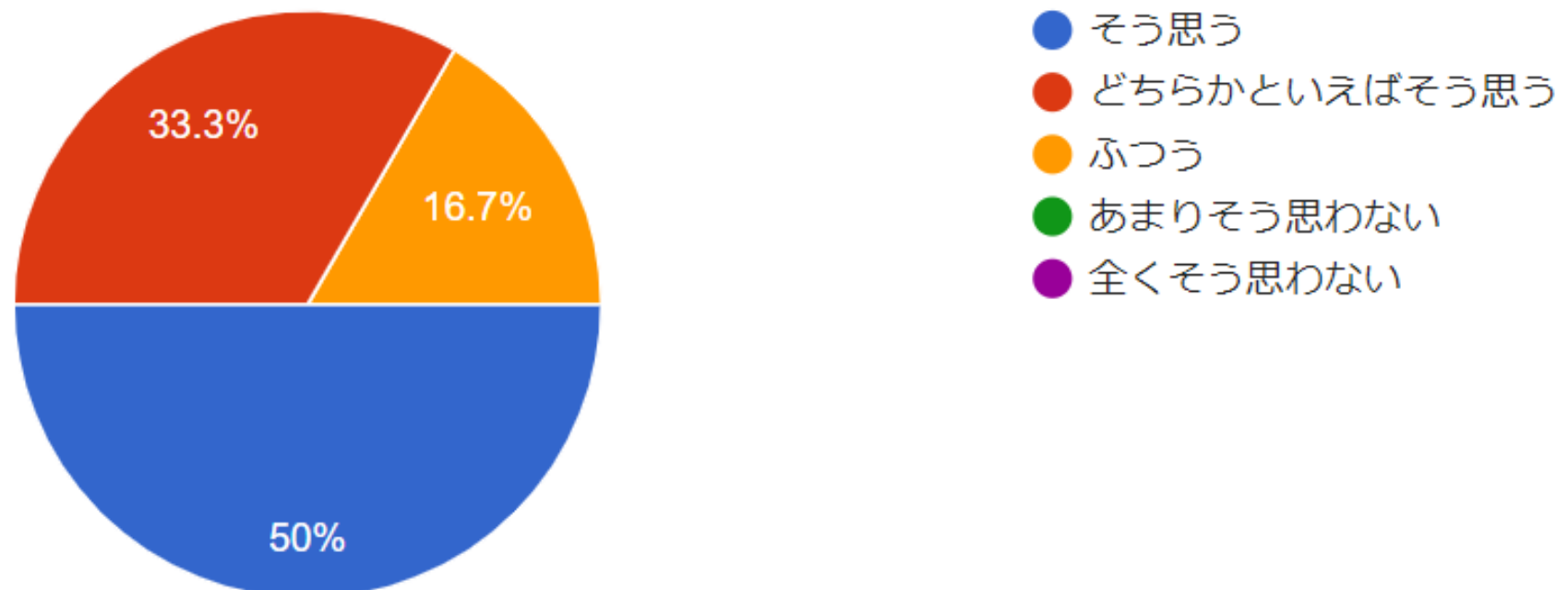
第9回 20220119ならまちリーグ

魏 小娥 京都芸術大学

「歴史的建造物群の保存政策とその利活用の比較について 奈良と西安を事例として」

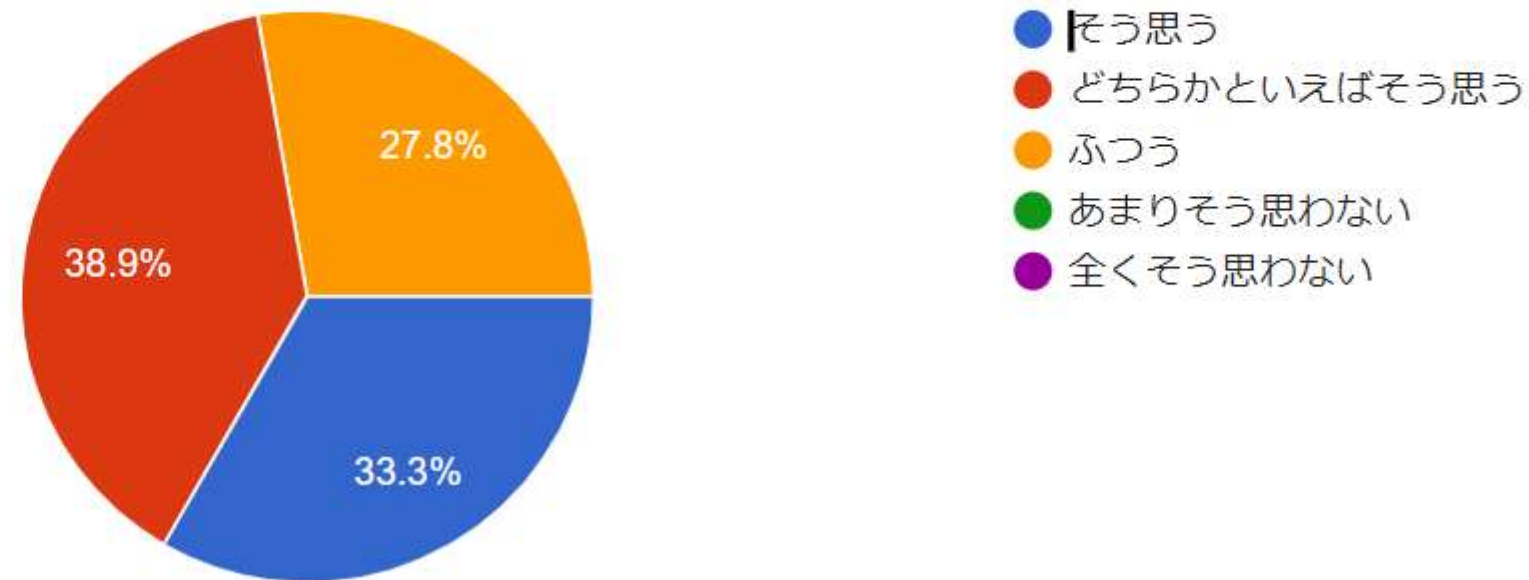
Q1: 今回のプレゼンテーションは、あなたの視線や注意を惹く演出や画面切り替えがなされていたか？

18 件の回答



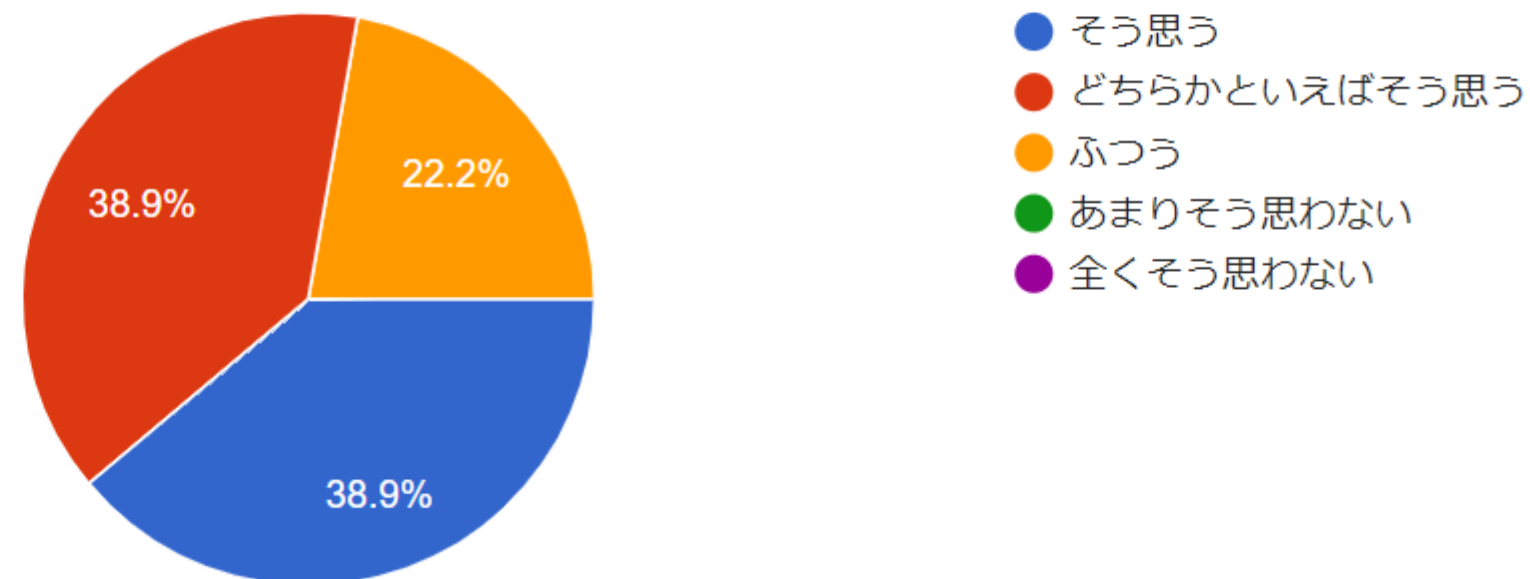
Q2: 今回の講話・ワークショップは、オンラインならではの工夫があるものになっていましたか？

18件の回答



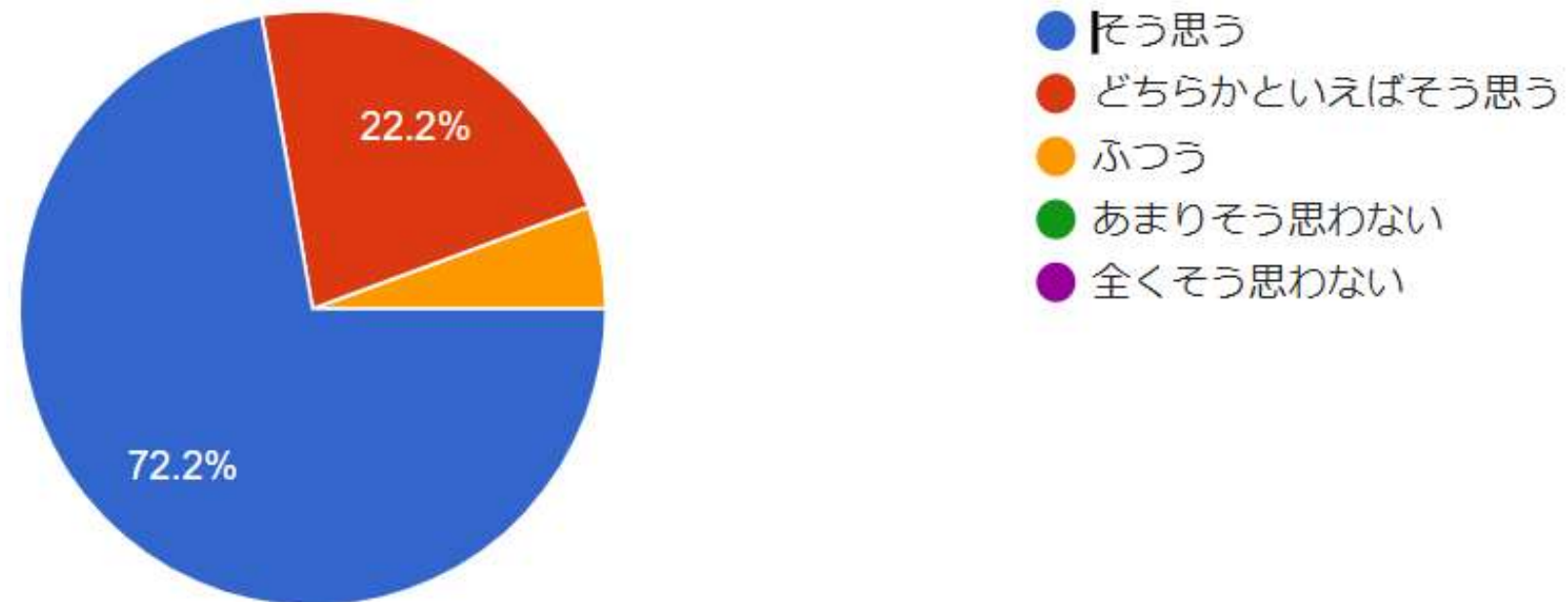
Q3: (画面上での講師の魅せ方) 画面から見える講師の表情や視線、姿勢、声量は適切でしたか？

18件の回答



Q4：（オペレーションの安定度） 講義が円滑に進行できるよう司会や事務局等のサポートは機能していましたか？

18件の回答



Q5：今回の講義そのものの内容は、あなた（のご期待）にとって有意義なものだと感じられましたか？

18件の回答



Q6：上記Q5について、補足ご意見、ご評価、気になった点や改善点があればお聞かせください。

地元の歴史・文化・施設を維持・発展していく活動について、具体的に紹介していただき、ありがとうございました。

魏さん

今井町、高取町ともに身近な地域なので、興味深く視聴させていただきました。八木の札の辻にも興味が湧きましたので、自分でも散策してみようと思います。近代の西安のことも知らなかったのが面白かったです。

萱嶋さん

奈良生まれ奈良育ちの大学2年生の娘と一緒に視聴させていただきました。コトノハのみなさんが学生目線で奈良の魅力を見つけ、伝えておられる姿を見て、自分も今まで気づかなかった奈良の魅力を探してみようと思っておりました。今回もいろいろ学ばせていただきました。ありがとうございました。

中国の情報収集能力に驚いた。彼女がスパイと言う意味でなく、必要な時に、日本人以上の歴史を調べている自国民が各国に多数居る、と言う事実

内容が難しく、専門性の高い場合、講師の方以外からの質問者の意図が分かりにくい場合があります。アドバイザーさんの意見が先に立つzoomでは、オーディエンスが共通に感じ得るであろう、素朴な質問を投げかけるのが難しいなと感じながら、お聞きしています。

街の保存と住民との共存と言う事で大変勉強になりました。また後半については学生さんが自主的にこのような素晴らしい活動をされている事を知り奈良は街が人を育てていくんだなと感銘を受けました。

Q6：上記Q5について、補足ご意見、ご評価、気になった点や改善点があればお聞かせください。

日本と中国の文化的景観(住居や街並み)に対する行政の関わり方の違いを知ることが出来ました。より理解度を上げる為に、各視点毎に比較して論者の考察や意見を述べるスタイルしすると議論や視聴者の気づきが活性化すると思われました。

いい議論が行われました。

中国の事例を伺ったのが初めてで興味深かったです。日本の宮大工の様に建築技術の継承がされているのか知りたいです。奈良女子大さんは学生目線というコンセプトが面白いと思えました。インスタなども展開されるとの事、高校生の興味を引けば奈良の大学に通う事や住む事が憧れになるのではと思えました。

移動中の参加になってしまい、途中途切れ途切れになったので、全体把握がこちらの理由で掴めなかったためです。

魏さんの歴史的建造物群の保存政策とその活用については、私が日中で比較をしようと思うきっかけがなかったため、興味深く感じました。中国は損得文化が強い国です。そして国民性としては「現実」を優先する気質の方が多いように感じています。つまり状況に応じて判断していく思考様式なので、「現時点で見えていないこと」には興味が湧かない。歴史建造物群の保存に関しても、その価値が見えていないと自分には必要ないと思い、例えば破壊をする。しかしその価値(得)が見えたから保存をする、という流れなのかなとも感じました。そういう国民性との比較も気になりました。萱嶋さんのプレゼンは、私が大学生の頃はこういう活動を全くしてこなかったもので、興味深く拝聴しました。何代かにわたって続いているというのは良いことだと思います。お店の紹介になりがちになっている、という点では、差別化をどうされていくのかが、今後楽しみにです。

自分のまち今井町の話が聞けて良かった。

Q7：その他の御意見や今後の講話会のテーマのご希望などありましたらお書きください。

この度も素晴らしい時間をありがとうございました。

自分も今後、何らかのことに関わっていきたいという気持ちになりました。

色々な団体の理念を聞いてみたいです。

魏先生のお話からは、今井町はじめ日本における伝建の持続可能性について、考えるところが多々ございました。古い町並みの価値を、どれほど多くの日本人が感じ得ることができるのか、それらの町並みは、中国のように歴史ある国の人々においても、将来も観光資源として成り立つのかなど、興味深くお聞きしました。20数年前ですが、東京の谷中、根津、千駄木における「谷根千」のNPOが地元住民を巻き込んだ町の保存・継承活動と観光地としての価値の発掘・育成にいたるまでを取材させていただいたことを思い出し、比較しながらお聞きしました。ありがとうございました。

コトノハの萱嶋有咲さんのお話からは、学生さんが自らデザインをして発行できるスキル、メディアやSNSを上手に活用する様に改めて感心しました。奈良の女学生という視点で差別化をされているのもいいですね。そこに、リアリティや、リアルタイム（イマ）という点が感じられるとさらに独自性が増すと思います。情報過多な現代において、“奈良で生活をする女学生だけが知り得る奈良の今日” “学生だから体験して伝えられるイマ” 的な情報の鮮度や、奈良の素顔が見えると、面白みが増す気がします。ジョルテさんのような時間軸を対象とされる企業さんとのタイアップにも大いに可能性を感じます。これからの奈良を面白くするのに若い視点は大事！さらなる飛躍を楽しみに拝見させていただきます。ありがとうございました。

Q7：その他の御意見や今後の講話会のテーマのご希望などありましたらお書きください。

今回の様な、ある事や視点を地域や国によってどの様に違うのか？それはなぜか？的な講話がたくさん聴けるとうれしいです。

観光においても 町並み保存においても 従来から住んでいる人のメリット 特に金銭面のメリットをどうするかを考えることで いろいろな解決策が見つかるのではと思います。

ありがとうございました。

観光においても 町並み保存においても 従来から住んでいる人のメリット 特に金銭面のメリットをどうするかを考えることで いろいろな解決策が見つかるのではと思います。

ありがとうございました。

若い方々の生き生きとした活動、しっかりとした思いに、感動し、すごく良い刺激にもなりました。ありがとうございました。

春日講、地蔵講、庚申講などの話が聞きたい